

1 年 1 資料名 中学生になった君たちに

出典 [朝日新聞社説 1989年（平成元年）4月7日]

主題名 責任ある行動

ねらい 自主的に考え、判断することの大切さを理解し、自己の責任を果たそうとする態度を養う。

道徳内容 A－1（自主、自律、自由と責任）
自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

| | |
|---------------------------------|---|
| 主 題 設 定 の 理 由 | 道徳内容について 自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そのためには自由と放縦とを誤解せず、自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるようにすることが大切である。 |
| | 生徒の実態と指導の方向について この時期の生徒は、周囲を気にして他人の言動に左右されてしまうことも少なくない。しかし、一方では自由をはき違えて奔放な生活を送ったり、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということを深く考えたりすることができない面もある。そこで自ら考え、判断し、決定する体験を通し、失敗を含めて自己の決定に対しては自らが責任をもち、責任を果たそうとする態度を養いたい。 |

| | |
|------------------|--|
| 関 連 事 項 | 体験活動等の他の教育活動との関連 ・ 学級活動の「学級や学校の生活づくり」との関連を図った指導方法の工夫。 ・ 校外学習や自然体験活動等の体験で気付いた「自律・責任」を生かした授業展開の工夫。 |
| | |

板
書
例

| | | | | | | |
|---------|------------------------|---|---------------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---|
| 判断して・・・ | 周囲の言動に左右されず・・・自分で学んだこと | ＝ | 「だれかがやめなくては・・・」 ・ 自分で考え判断する＝責任を果たす | 「クライ」「むかつく」 いじめ ・ みんなが言うから言う | 「自分の頭できちんと考える」 ・ めんどくさい | 資料「中学生になった君たちに」 責任とは やらなければならない行為や義務 学習課題 自分の責任を果たすことの大切さを知りながら・・・ |
|---------|------------------------|---|---------------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---|

| |
|---|
| 評価の視点 |
| ○自分に与えられた責任を果たすために必要な、見方・考え方に 気付き、多面的・多角的な見方へ 広げようとしているか。 |
| ○最後まで自分の行動に責任をも つことの大切さについて、学習した ことをもとに、自分はどうだったか、 どう考えたかなどを振り返り、自らの 考えを深めているか。 |

学習指導過程 例

| | 学習活動（発問と予想される生徒の反応） | 教師の支援 |
|--------|---|---|
| 導 入 | 1 「責任」という言葉の意味について考える。 | ・ 素直に発表できる雰囲気をつくり、学習課題につながるようにする。 |
| | 【本時の学習課題】 自分の責任を果たすことの大切さを知りながら、実行できない自分を変えるには、どのような見方や考え方をもつことが大切か。 | |
| 展 開 | 2 資料を読んで、次のことについて話し合う。 | ・ 教師が範読する。 |
| | 「『自分の頭で』きちんと考えること」はどうして大変なのだろうか。 ・ 面倒くさい、だれかが考えればよい。 ・ 自分が考えたことを他人に知られる。 なぜ「クライ」「むかつく」という言葉を書いたり、いじめが起きたりするのだろうか。 ・ 自分が嫌いな人だから、言ってしまう。 ・ 自分だけ目立って、仲間外れになりたくない。 ・ みんなが言うから言っている。 「だれかがやめなくては、このバカげたくり返しはとまらない」という筆者の言葉にはどんな思いがこめられているか。 | ・ 自分で判断することに自信がないなど、多様な考えを引き出したい。 ・ 周囲の言動に左右され、無責任な言動をしている自分に気付かせたい。 ・ 周囲の言動ではなく、自分で考えて行動することの大切さに気付かせたい。 |
| 結 束 | 3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。 | ・ 学習課題に注目させ、今の自分を振り返り、今の自分を乗り越えさせる手がかりとする。 |
| | 資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。 | |
| 終 末 | 4 生活の中で果たすべき「責任」について考える。 | ・ 自分の行動に責任をもつことの大切さについて改めて考えさせ、まとめさせる。 |
| | | ・ 余韻をもって終わらせる。 |

1年2

資料名 帰りたい場所

出典 [横浜市立泉が丘中学校 生徒作文]

主題名 大切なふるさと

ねらい 生活の場である地域社会の大切さを理解し、郷土を愛する心情を育てる。

道徳内容 C－16（郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度）
郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

主題設定の理由 道徳内容について
都市化が進む一方で過疎化も進んでおり、そのために郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっていく傾向が見られる。地域社会は、家庭や学校と同様に大切な生活の場であることを理解するとともに、郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、そのよさに気づき、郷土に対する誇りや愛着をもつとともに、郷土に対して主体的に関わろうとする心情が育まれる。
生徒の実態と指導の方向について
この時期の生徒は、行動範囲が広がり目も外に向かうようになってくるため、自分の生まれ育った地域への愛着や関心も薄れがちである。また、多くの地域で生徒たちは地域に住む人々との触れ合いや、共に協力して何かを成し遂げるという機会が少なくなってきた状況は否めない。そこで、郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようという心情を育みたい。
資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）
大好きだった故郷・浪江町を、東日本大震災による原発事故のために、突然離れなければならないようになった筆者の望郷の思いを理解し、郷土を愛する心情を深めさせたい。

関連事項 体験活動等の他の教育活動との関連
・ 地域清掃や祭礼など、地域との交流行事やボランティア活動などのふれあいを生かした体験と関連付ける。
・ C－14、C－17「家族愛」「我が国の伝統と文化の尊重」などと関連付ける。

板書例

資料「帰りたい場所」学習課題

自分の住んでいる地域を大切に
するためには…。

横浜↓第二のふるさと
浪江↓いつかは帰りたい
ふるさと
・満天の星空
・四季折々の田んぼ
・友達
学んだこと
自分の住んでいる地域は、
自分を育んできた場所
で…。

評価の視点
○郷土の発展に尽くそうとする
気持ちの背景にある様々な見方・
考え方に気づき、多面的・多角的
な見方へ広げようとしているか。

○地域や郷土を愛する気持ちに
ついて学習したことをもとに、自
分はどうだったか、どう考えるか
などを振り返り、自らの考えを深
めているか。

学習指導過程 例

| | 学習活動（発問と予想される生徒の反応） | 教師の支援 |
|----|---|---|
| 導入 | 1 自分の住んでいる地域の良いところや好きなところを発表し合う。 | ・友達や家族と遊びに行つて気に入っている場所などと比較してみる。 |
| 展開 | 【本時の学習課題】 自分の住んでいる地域を大切にするためにはどのような気持ちをもつことが大切なのだろうか。 | |
| | 2 資料を読んで、次のことについて話し合う。 | ・教師が範読する。 |
| | 私が、毎日のように「帰りたい」と思って泣いていたのはなぜか。 ・ 震災のために突然ふるさとを離れなければならなかったから。 ・ 友達に会いたかったから。 | ・生まれ育って、安心して生活していた場所を、原発事故によって突然離れなければならないようになった気持ち、震災のショックなどを理解させたい。 |
| | 美しい景色の向こうに見えた「懐かしい風景」とはどんなものだったのだろう。 ・ 田んぼの緑。 ・ 一面の銀世界。 ・ 星が広がる美しい夜空。 | ・ 普段何気なく見ている光景や風景が、離れてみて初めて懐かしく感じられることを考えさせたい。 |
| 開 | 横浜を第二のふるさとと決めても、「いつかは浪江に帰りたい」と私が思うのはどうしてだろう。 | ・ もう一度しっかりとふるさを見たいという強い望郷の思いを感じ取らせたい。 |
| | ・ 自分が生まれ育った大切な場所だから。 ・ 忘れられない美しい景色をもう一度見たいから。 | |
| | 【資料を通して学んだこと】 地域（郷土）に尽くしてくれた先人などの人々によって自分が支えられて生きていることに感謝するとともに、自分も地域の一員として主体的に関わろうとする気持ちをもつことが大切である。 | |
| | 3 今の自分を振り返り、次のことについて友達と話し合う。 | ・ 資料を通して学んだことを実践するとどのようなよいことがあるのか考える。 |
| 終末 | 資料から学んだことに照らして、今の自分はどうか。 | ・ 学習課題に注目させ、今の自分を振り返り、乗り越える手がかかりとする。 |
| | 4 地域との関わりの大切さについて考えを深める。 | ・ 自分の事として考え、今後の意欲付けとしたい。 |

1 年 3 資料名 私を支えていた教え
出典 [草柳大蔵 「草柳大蔵の礼儀と作法」 グラフ社]
主題名 礼儀

ねらい 礼儀の大切さを理解し、進んで礼儀を身に付けようとする態度を養う。

道徳内容 B－7（礼儀）
礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。

主
題
設
定
の
理
由

道徳内容について
礼儀の基本は、相手の人格を認め、相手に対して尊敬や感謝などの気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって初めてその価値が認められることを理解し、人間尊重の精神に基づいて、他者を敬う気持ちをもって、時と場に応じた適切な言葉遣いや行動をしようとする態度を養うことが大切である。

生徒の実態と指導の方向について
この時期の生徒は、礼儀の大切さについてはある程度理解し、言葉遣いや行動の仕方も身に付きつつある。しかし、教えられたことを無意識に習慣として実践してきた受け身の姿勢になりがちである。
そこで、礼儀は、相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分理解させ、時と場に応じた適切な言葉遣いや態度などを示すことの必要性を理解し、実践しようとする態度を養いたい。

資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）
筆者は、かけ出しの編集員だった頃に受けた温かい忠告を30年近く守り続けた。その教えこそ人物評価のモノサシとなり、自分を築き上げ、導いてくれたと振り返る筆者の言葉から、礼儀の大切さを理解し、進んで礼儀を身に付けようとする態度を養う。

関連事項 体験活動等の他の教育活動との関連
・ 職場体験や福祉体験などの地域の交流等の体験で気付いた「あいさつ」等を生かした授業展開の工夫。
・ 国語科及び各教科で行う「言語に関する能力の育成」との関連付けを図る。

板
書
例

学んだこと
進んで礼儀を身に付け、
相手を……。

夫人の忠告
・二十数年後
田実氏の取材
← 信頼・安心
← 三年後
中山氏の取材
挨拶・言葉Ⅱ礼儀
人物評価のモノサシ

資料「私を支えていた教え」
学習課題
礼儀や言葉遣いをつい
軽く見てしまう……。

評価の視点
○進んで礼儀を身に付けることの大切さの背景にある、様々な見方・考え方に気付き、多面的・多角的な見方へ広げようとしているか。
○礼儀の大切さを理解し、学習したことをもとに、自分はどうだったか、どう考えたかなどを振り返り、自らの考えを深めているか。

学習指導過程 例

| | 学習活動（発問と予想される生徒の反応） | 教師の支援 |
|--------|---|---|
| 導 入 | 1 他の方の挨拶や、丁寧な言葉遣い、態度を受けて、感じたことを発表する。 | ・心が大切だとはわかって も、形を軽く見てしまい がちであることに気付か せる。 |
| 展 開 | 【本時の学習課題】 礼儀や言葉遣いをつい軽く見てしまう今の自分を変えるには、どのような考えをもつことが大切か。 | |
| | 2 資料を読んで、次のことについて話し合う。 | ・教師が範読する。 ・筆者が忠告を素直に受け 取り、今後に生かそうと している姿勢に気付かせ たい。 |
| | 開 | ・礼儀に適った行動は、多 くの人に爽快感を与える ものであることを理解さ せたい。 ・礼儀正しい言動はその人 の評価にもつながることを 理解させたい。 |
| 終 末 | 3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。 | ・学習課題に注目させ、今 の自分を振り返り、今の 自分を乗り越える手がかりとする。 |
| | 4 教師の説話を聞く。 | ・礼儀の意義を再確認し、 今後の意欲付けとする。 |

1 年 4 資料名 二度としない

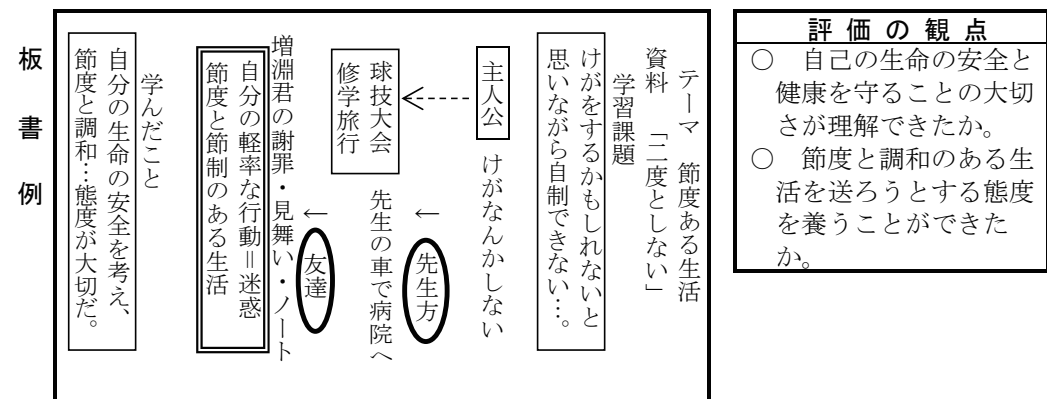
出典 [中学生作品 「中学校道徳の指導資料とその利用 4」 文部省]
主題名 節度ある生活

ねらい 自己の生命の安全と健康を考え、節度と調和のある生活を送ろうとする態度を養う。

道徳内容 A－2（節度、節制）
望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事。

主題設定の理由 道徳内容について
望ましい生活習慣を身に付けることは、心身の健康を増進し、気力と活力に満ちあふれた充実した人生を送る上で不可欠であり、心身を鍛え、調和のある生活をする事は人格形成に深くかかわる。そこで、生活のあらゆる場面において節度を守り節制に心掛け、心身の調和のある生活の実現に努めることが自己の人生を豊かにし、意義ある生き方につながることを理解させることが大切である。
生徒の実態について
この時期の生徒は、心身ともに著しい発達をみせ、活力にあふれ意欲的に活動できる。しかし、心と体の発達が均衡しているわけではなく、軽はずみな行動で健康を損なったり、衝動にかられた行動に陥ったりすることもある。
資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）
友人とのふざけあいのもとで、けがをしてしまった主人公の心の動きを通して、軽率な行動が思わぬ事態を招くことを考えさせ、自己の生命の安全と健康を考え、節度と調和のある生活を送ろうとする態度を養いたい。

関連事項 体験活動等の他の教育活動との関連
・保健体育科保健分野「傷害の防止」等の学習との関連付け。
・日常生活や学校行事での体験を生かした授業展開の工夫。
私たちの道徳との関連 関連ページ P10～15
導入や終末で「自分で生活をコントロールする」「自分の生活習慣をチェックしてみよう。」等の活用が考えられる。



評価の観点
○ 自己の生命の安全と健康を守ることの大切さが理解できたか。
○ 節度と調和のある生活を送ろうとする態度を養うことができたか。

学習指導過程 例

| | 学習活動（発問と予想される生徒の反応） | 教師の支援 |
|----|--|--|
| 導入 | 1 自分の不注意でけがをしてしまったことについて発表する。 | ・生徒の体験を学習課題につなげるようにする。 |
| 展開 | 【本時の学習課題】 けがをするかもしれないと思いながら自制できない今の自分には、どのような気持ちや考え方が足りないのだろうか。 | |
| | 2 資料を読んで、次のことについて話し合う。 「まさかこんなことになるとは」と思いながら、保健室に駆け込んだ主人公の気持ちはどのようなものであったろう。 ・ えっ、嘘だろう。自分がけがをするなんて。 ・ なんてこんなことになるんだよ。 「間もなく球技大会…残念だなあ」と言われた言葉が胸にささったのはなぜだろうか。 ・ 球技大会や修学旅行に参加できない。 ・ ばかなことをしてしまった。 校長先生の言葉を聞いて、主人公が「涙が出そう」になったのはどうしてか。 ・ 修学旅行に行ける嬉しさ。 ・ 先生や友人に心配と迷惑をかけてしまった。 | ・教師が範読する。 ・軽率な行動が大きな事故につながり戸惑う主人公に着目させる。 ・やさしく慰める担任の言葉が、逆に主人公につらく受け止められていることに気付かせる。 ・自分がけがをしたことが多くの人に心配と迷惑をかけたことを反省していることに共感させたい。 |
| | 【資料を通して学んだこと】 自分の生命の安全を考え、節度と調和のある生活を送ろうとする態度が大切だ。 | |
| | 3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。 資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。 | ・学習課題に注目させ、今の自分を振り返り、今の自分を乗り越えさせる手がかりとする。 |
| 終末 | 4 「学校のけがの発生件数」や「交通事故の発生件数」などの統計を見る。 | ・自制心をもって生活することの大切さを深く浸透させる。 |

1 年 5 資料名 ぼくは議長

出典 [横浜市立谷本中学校 生徒作文]

主題名 集団生活の向上

ねらい 集団における自己の役割と責任を自覚し、互いに協力して集団生活の向上に努めていこうとする態度を養う。

道徳内容 C－15（よりよい学校生活、集団生活の充実）
教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

| | |
|---------------------------------|---|
| 主 題 設 定 の 理 由 | 道徳内容について 集団の一員としてよりよく生きていくためには、自分の属する集団の意義を十分に理解し、役割と責任を自覚して、一人ひとりが責任を果たし集団の目標を達成する中で集団生活の向上が図られ、自己の実現もなされる。 |
| | 生徒の実態について この時期は、学級、学校、地域社会などの様々な集団の中で互いに深くかかわり合って相互理解を深め、それぞれの集団の中で人間的な成長を遂げるのにより時期である。一方で、集団の一員としての所属感や一体感を強く求め、自己の思いのみを先行させてしまうこともある。 |
| | 資料とその取り扱いについて （資料活用上の留意点） 筆者が議長としての役割と責任の重さの中で葛藤している心の動きに着目させ、身近な集団における自己の役割と責任を自覚し、互いに励まし合い協力し合って集団生活の向上に努めようとする態度を養わせたい。 |

| | |
|------------------|--|
| 関 連 事 項 | 体験活動等の他の教育活動との関連 <ul style="list-style-type: none">自然体験活動や職場体験活動を通して気付いた自分の役割と責任を生かした授業展開の工夫。家族の一員、地域社会の一員としての役割と責任との関連付け。 |
| | 私たちの道徳との関連 関連ページ P166～171 導入や終末でP168・169の空欄に書き込ませて、役割や責任についての考えを深めさせるなどの活用ができる。 |

板
書
例

| | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|---|------------------------------|------------------------------|--------------------|--|
| <p>学んだこと</p> <p>集団の一員としての役割と責任を自覚し…。</p> | <p>○「今、ぼくは議長である」</p> <p>・議長としての役割と責任を果たす自信</p> | <p>先輩の言葉</p> <p>←</p> | <p>○「もう、辞めよう。」と考えた</p> <p>・議長としての自信を失った</p> | <p>役割と責任を…実行できない今の自分には…。</p> | <p>資料「ぼくは議長」</p> <p>学習課題</p> | <p>テーマ 集団生活の向上</p> | <p>評価の観点</p> <p>○ 集団における自己の役割と責任を自覚することの大切さについて理解を深めることができたか。</p> <p>○ 互いに協力して集団生活の向上を図ろうとする態度を養うことができたか。</p> |
| | | | | | | | |

学習指導過程 例

| | 学習活動（発問と予想される生徒の反応） | 教師の支援 |
|--------|---|--|
| 導 入 | 1 体験活動などで自分の役割や責任を果たせなかった事について発表する。 | ・自分たちの問題としてとらえさせる。 |
| | 【本時の学習課題】 役割と責任を果たさなければいけないと思っていても、実行できない今の自分には、どのような考え方が足りないのだろうか。 | |
| 展 開 | 2 資料を読んで、次のことについて話し合う。 筆者が議長を「もう、辞めよう。」と考えたのはなぜか。 ・ 筆者を批判する人が多かった。 ・ 議長としての自信を失っていた。 | ・ 教師が範読する。 ・ 批判を受け、議長を続ける自信を失いつつある筆者が必死に葛藤していることに気付かせる。 |
| | 先輩の「かなり議長として成長したと思う」という言葉には、どのような気持ちが込められているか。 ・ みんなに何を言われても大丈夫。 ・ 議長としての役割と責任を果たせる。 | ・ 議長としての悩みを乗り越えた、先輩の自信ある言葉を聞いた筆者の心情を感じ取らせる。 |
| 開 閉 | 「今、ぼくは議長である。」という言葉には、筆者のどのような気持ちが込められているか。 ・ もう「辞める」なんて言わない ・ 議長としての役割と責任を果たす自信がある。 | ・ 先輩と同じように、議長としての役割と責任を果たそうとする決意に共感させたい。 |
| | 【資料を通して学んだこと】 集団の一員としての役割と責任を自覚し、協力してよりよい集団をつくろうとする態度が必要である。 | |
| 終 末 | 3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。 資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。 | ・ 把握した価値をしっかりと確認し、振り返らせる。 ・ 学んだことに注目させ、今の自分を乗り越えるための手がかりとしたい。 |
| | 4 私たちの道徳P168「集団の中の役割と責任」を書いて発表する。 | ・ 実践意欲を高めるようにしたい。 |

1 年 6 資料名 樹齢七千年の杉

出典 [椋 鳩十]

主題名 自然の命

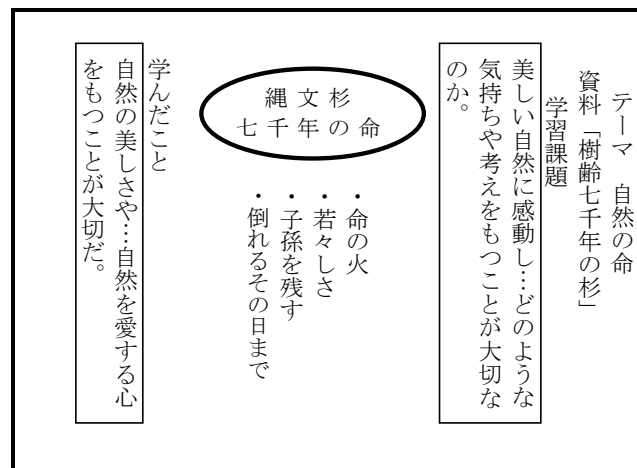
ねらい 美しい自然に感動する豊かな心情を深め、自然を愛する態度を養う。

道徳内容 D－20（自然愛護）
自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。

主題設定の理由
道徳内容について
自然の美しさや神秘さを感性で受けとめるとともに、自然は人間の力が及ばない存在であり、自然との関わりを深く認識すれば、人間は様々な意味で有限なものであり、自然の中で生かされていることを自覚することができる。自然の中で生かされている人間が、自然に対して謙虚に向き合うことが大切であることを理解する。
生徒の実態と指導の方向について
この時期の生徒は、豊かな感性が育ってくるとともに、様々な体験を通じて自然の美しさに癒される自己に気付くようになる。そこでの感動や不思議に思ったことなどの体験をいかして、人間と自然とのかかわりを多面的・多角的に捉え、自然を愛し、「守る」といった環境の保全を通して、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める態度を養いたい。
資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）
樹齢七千年といわれる縄文杉に出会い、言葉では言い尽くせないほどの感動を味わった筆者の気持ちを共有することで、人間の力を超えたものへの畏敬の気持ちと自然を愛する態度を養っていきたい。

関連事項
体験活動等の他の教育活動との関連
海や山への遠足や、環境をテーマとした総合的な学習の時間、理科の授業における植物についての学習などを通して得た自然の豊かさや神秘さを感じた体験を生かした授業展開の工夫。

板書例



評価の視点
○美しい自然に感動する豊かな心情を身に付けるために必要な見方・考え方に気付き、多面的・多角的な見方へ広げようとしているか。
○自然を愛する気持ちについて学習したことをもとに、自分はどうだったか、どう考えたかなどを振り返り、自らの考えを深めているか。

学習指導過程 例

| | 学習活動（発問と予想される生徒の反応） | 教師の支援 |
|----|--|---|
| 導入 | 1 自然に触れたとき、「うわーっ」と感じたり「じーん」とした体験を発表し合う。 | ・言葉にならないような体験がある生徒に発表させ学習意欲を高める。 |
| 展開 | 【本時の学習課題】 美しい自然に感動し、自然を愛する心を身に付けていくためには、どのような見方や考え方をもちることが大切か。 | |
| | 2 資料を読んで、次のことについて話し合う。 <div>筆者がサルやシカを見かけたとき「胸がどきどきするほど感動」したのはなぜだと思うか。</div> <ul style="list-style-type: none">人に飼われているのではなく、自然の中で自然の一部として生きているのを感じたから。 <div>こういう音が、筆者には「大自然の神と、会話でも交わっているような音」に聞こえたのはなぜだと思うか。</div> <ul style="list-style-type: none">七千年の時を生きてきた縄文杉に圧倒され、風にざわめく音には聞こえなかったから。筆者の存在など関係ないように感じたから。 <div>筆者が縄文杉に出会って、心を揺り動かされたのはどうしてだと思うか。</div> <ul style="list-style-type: none">老木にもかかわらず、命の火をぼうぼうと燃やして今を生きているから。老木なのに若々しく、子孫を残す実をつけていたから。 | ・縄文杉の写真を見せながら、教師が範読する。 ・自然と触れ合うことに喜びを感じている、筆者の自然への愛情に共感させたい。 ・筆者が感じた、人間の力を超えたものを感得させたい。 |
| | 【補助発問】 ぼうぼうと燃えるという筆者の表現には、どのような気持ちが込められているのだろうか。 | |
| 開 | 【資料を通して学んだこと】 自然の美しさやすばらしさ、不思議さを素直に感じ取り、自然を愛する心をもつことが大切だ。 | |
| 終末 | 3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。 <div>資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。</div> | ・把握した価値をしっかりと確認し、時間を十分にとってじっくりと振り返らせる。 |
| | 4 教師自らが経験した自然のすばらしさ、偉大さについての話を聞く。 | ・余韻を残すような説話を聞き、自然を愛する態度を養っていききたい。 |